

# ひきこもりと地域共生：持続可能な支援アプローチの探求



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 講師

森川 由基 Morikawa Yoshiki

URL：[帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード：ひきこもり・不登校・孤立・孤独・抑うつ



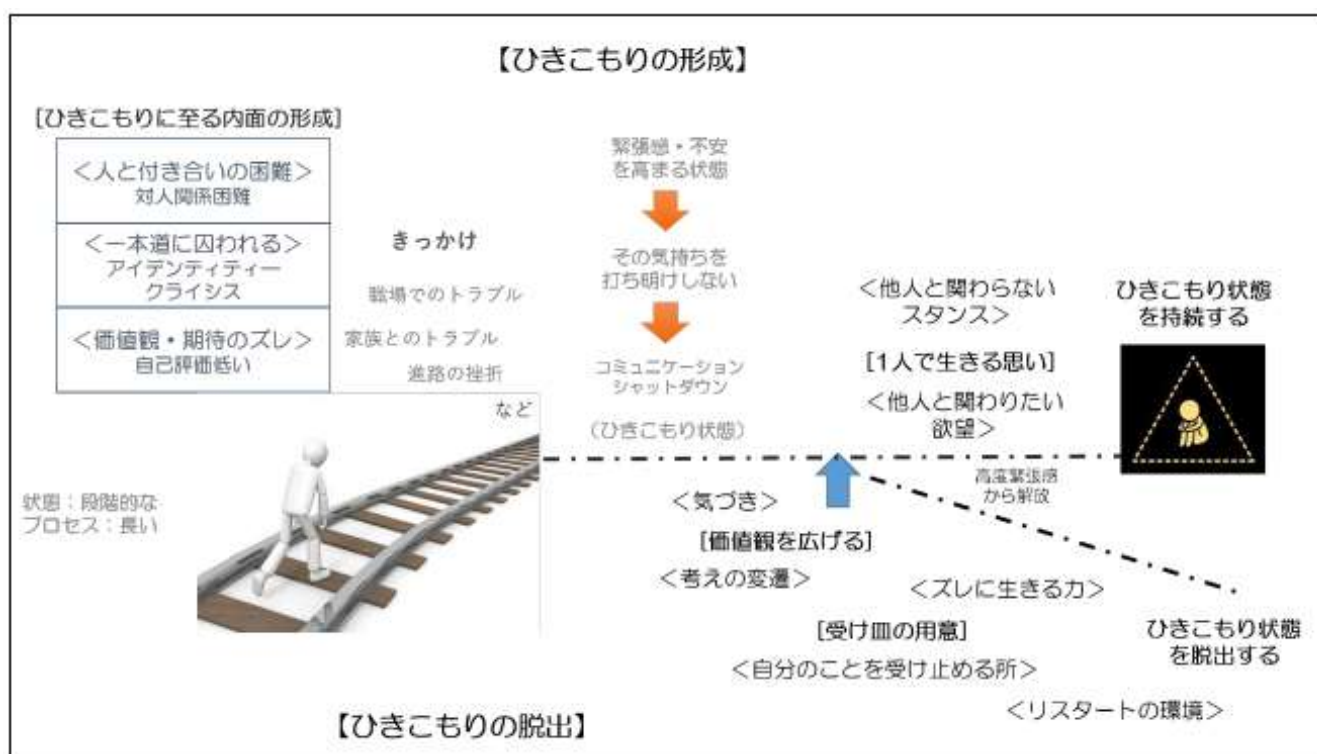
## 研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

ひきこもり当事者数は増加傾向にあり、15歳～64歳の生産年齢人口において、約146万人がひきこもり状態であるという調査（2023年 内閣府）より、この数は過去の調査と比較しても大幅に増加しており、深刻さが増していることが示唆されます。

ひきこもり問題に及ぼす影響を理解し、ひきこもりの背景に合わせた新しいアプローチを開発する必要がありますが、既存の研究や支援にとらわれず、ひきこもり当事者が地域に根付いて社会参加を実現するプロセスの新たな可能性を探求し、地域特性を考慮したうえで、ひきこもりの背景に合わせた新しいアプローチ法の開発を目指します。ひきこもりに及ぼす影響を学際的かつ創造的に検討し、ひきこもり当事者が地域に根付いた社会参加を実現できるよう、新たな可能性を探求します。



## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究は、11兆円の経済的損失を生み出しているとも試算されている「ひきこもり」や「不登校」を解決へと導き、教育現場のみならず、経済活動をおこなう産業界全体に影響を及ぼすことが期待される。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「ひきこもり (Hikikomori) 当事者に対する在宅医療の介入とその重要性」
- ・「COVID-19 による人工的ひきこもりとフレイルとの関連」

【科研費】 基盤 B「地域共生におけるひきこもり問題の画期的研究：共感から共生への新たな道」